

農福連携で地域とのつながりを深めたい

就労支援事業所 よつば（神戸市）



夏野菜の栽培と播種 地域のボランティアの方と



地域マルシェでの野菜販売

経緯

- ・学校卒業後の就労支援先での作業が合わずに異動している障害者が見受けられることから、仕事の選択肢がもっと増えればと考える中、屋外で開放的な時間を過ごせる農作業に注目。令和3年8月に農業分野での障害者就労支援活動事業を行う「よつば」を設立。
- ・近隣の農地所有者から借り受けた農地3,000㎡に、令和3年度農山漁村振興交付金の農福連携支援策を使って耐候性ハウス（7m×30m）2棟を建て、露地とハウスで野菜（ホウレンソウ、水菜、トウモロコシ、ジャガイモなど）の栽培を開始。

取組内容

- ・画像、動画の活用や記号による単純化などにより、利用者の誰もが理解しやすい農作業のマニュアルづくりに取り組んでいる。
- ・生産した農産物は当事業所前で販売するほか、近隣のいくつかのレストランや福祉施設の昼食用の食材として提供。また、農家主催のマルシェに参加して販売することにより、地域に農福連携の取組を知ってもらう機会となっている。
- ・近隣の特別支援学校から実習生を受け入れ、農作業や収穫物の袋詰め作業などを通じた職業訓練実習を実施。

今後の展望等

- ・将来的には収穫物を加工して販売したいと考えており、今はジャムや切り干し大根などを試作している段階。加工品を販売するには、施設の準備や飲食店の販売許可等が必要ではあるが、付加価値のある商品として販売したい。
- ・できるだけ、農薬や化学肥料を使わない栽培方法や、農業機械などを上手く活用した利用者にとって負担の少ない農作業を模索したい。
- ・農場の周りの農家や外部の人と気軽に声をかけてもらえるような関係を築き、地域とのつながりを深めたい。また、農業が職業選択の一つとして浸透するよう特別支援学校や地域の障害者施設との関わりも深めていきたい。